

とうきょう すくわくプログラム活動報告書①

昨年度から「すくわくプログラム」と題して子どもたちの探究心を育む活動を行ってきました。異年齢クラスを対象に、園庭に設置予定のデッキハウスづくりを通して、木（自然）に触れる活動をしています。

【テーマ】 自然

【テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など】

園庭や園舎には多くの植樹や木が使われており、木に囲まれて生活していることで関心を持つ子どもも多いことから、木に触れて特徴や扱い方等を知り学んでほしいという願いがあります。

【活動スケジュール】年2回（2026年1月、2月）

【活動のために準備した素材や道具、環境の設定】

- ・様々な木の種類が載っている本
- ・木材
- ・木材を加工するための塗料や筆

これらを用いて、職人さんと一緒にデッキハウス作りを行います。



【活動内容】

（1回目：2026年1月）

- ・朝の会では、導入として「身近にある木で出来たものには何があるか」「木にも種類がたくさんあること」を子どもたちと一緒に考えたり、話をする。
- ・加工前の木材に触れ、匂いや感触を楽しむ。
- ・刷毛を使って木材に塗料を塗る。

【活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり】

（1回目：2026年1月）

身近にある木で出来たものを子どもたちと一緒に探してみると、『椅子と机！』『壁とか床もそうだ！』『こんなにいっぱいあったんだ』とたくさんの木に囲まれて生活していることに少し驚いている様子でした。木材に触れ、においをかいでみると『わあ、いいにおい！』と何度も何度もにおいを嗅ぎに来る姿があり、普段なかなかできない経験で新鮮なのだと感じました。『この木の名前は何か？』と子どもたちが職人さんに質問すると『オビスギだよ』と教えてもらい、『はじめて聞いた！』と嬉しそうな反応を見せていました。

【振り返りによって得た保育者の気づき】

今回「木」という素材を用いて活動をし、改めて木というものが自分たちにとってこんなにも身近な存在だったのだと子どもたちも発見があったようでした。身近とはいえ、意識して木材に触れるという経験は子どもたちにとって新鮮だったようで、木の種類や名前に興味を持ったり感触や匂いを楽しむ姿に、このテーマを選んでよかったと感じました。子どもたちの興味が広がるきっかけとなったので、次の活動にも生かしていけたらと思います。

とうきょう すくわくプログラム活動報告書②

【テーマ】 自然

【テーマに関する子どもの興味関心、園の特色など】

1回目のデッキハウスの活動後から子どもたちの木への関心が広がり、公園に出かけた際など「この木は何？」と疑問を持つ姿が増えました。子どもたちから出てきた疑問や興味関心を広げていけるよう、2回目も引き続き同じテーマでの活動を行いました。

【活動スケジュール】年2回（2026年1月、2月）

【活動のために準備した素材や道具、環境の設定】

- 様々な種類の木材

【活動内容】

（2回目：2026年2月）

- 木材（桐、アカシア、パイン）に触れ、身近にある木について考える。

【活動中の子どもの姿・声、子ども同士や保育者との関わり】

（2回目：2026年2月）

木材に触れ、感触や匂いを楽しむ。木材それぞれの匂いの違いに気づき「この木のおいがすき」と子ども同士で話していたり、木材の色を見て「この色、保育園の棚の色に似てる」などと話していました。また、「さっきのより重い」「うわ！これ軽いよ！」と重さの違いに気付く姿も見られました。

【振り返りによって得た保育者の気づき】

今回用意した素材は様々な種類の「木材」のみでしたが、子どもたちは発見や疑問が次々と浮かんでくる様子でした。たくさんの素材や道具がなくても、大人のねらいと子どもたち自身から湧き出てくる知りたい・学びたい意欲で活動がどんどん広がっていく楽しさを感じることができました。



重さはどうかな？



いいにおいがする…！